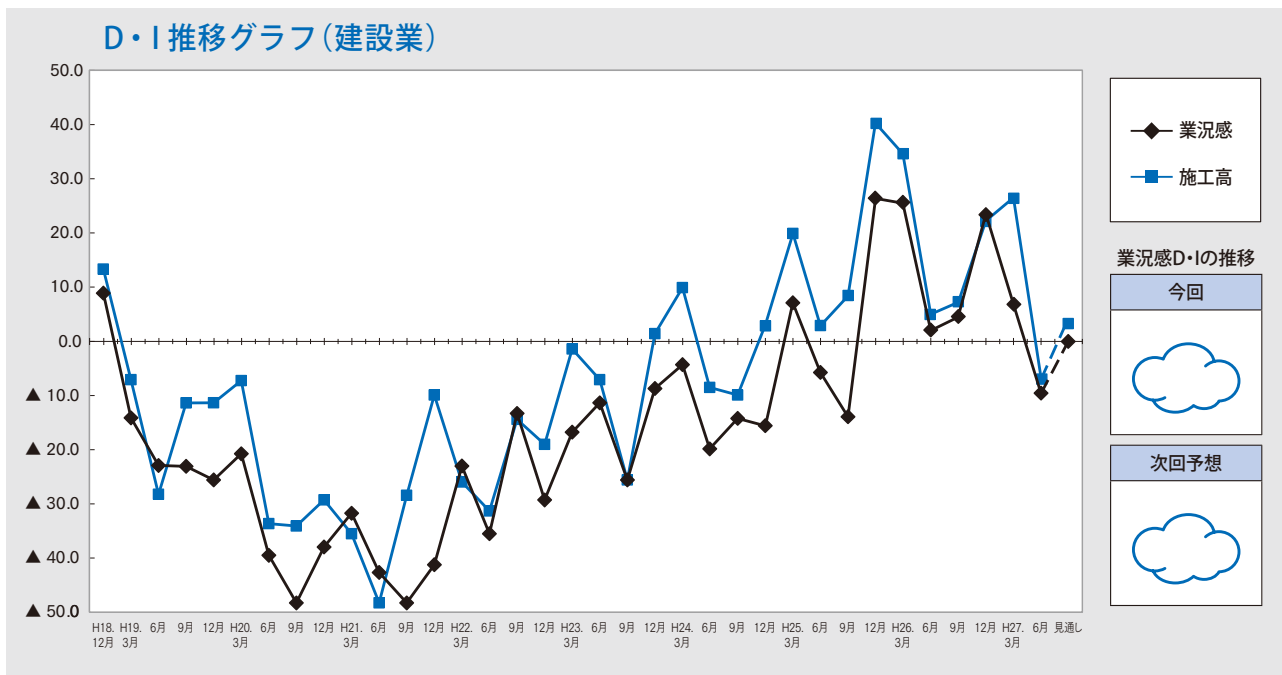


建設業

Construction industry

業況感、2期連続悪化

D・I 推移グラフ (建設業)



1 今期 (平成27年4 - 6月期)

業況感が▲9.7 (前期6.9)となり、前期から16.6ポイント悪化した。業況感D I がマイナスを示すのは、平成25年9月期以降7期ぶり。

今期の建設業は、材料価格D I が改善傾向を示している以外、ほとんどの項目で悪化となっており、特に施工高の減少が著しい。請負価格も低下しており、収益D I も前期比マイナス33.6ポイントと大きく下げている。

2 来期の予想 (平成27年7 - 9月期)

来期は、様々な項目で反転して改善が予想されている。

業況感についても今期から9.7ポイント改善し、D I 値が0.0となっている。請負価格は再び悪化しているが、今期大きく下げた収益D I と施工高D I がやや改善する見込み。資金繰りはやや改善し、借入を予想する企業の割合も減少している。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	H27.3月期	H27.6月期	来期見込み
業況感	2.7	4.3	23.6	6.9	▲ 9.7	0.0
施工高	5.5	7.1	22.2	26.4	▲ 6.9	4.2
収益	▲ 4.1	▲ 4.3	0.0	12.5	▲ 11.1	1.4
請負価格	▲ 2.7	15.7	2.8	6.9	0.0	▲ 1.4
材料価格	▲ 42.5	▲ 44.3	▲ 33.3	▲ 31.9	▲ 19.4	▲ 20.8
在庫	▲ 9.5	▲ 2.2	11.7	▲ 7.0	▲ 4.1	4.2
資金繰り	▲ 19.2	▲ 21.4	▲ 9.7	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 18.3
人手	8.2	15.9	25.4	15.3	6.9	13.9
設備状況	9.6	10.0	5.6	4.2	11.1	6.9

業況調査メモ

高齢化の波は鹿児島市内やその周辺部の大型団地でも着実に進行。単身あるいは夫婦2人だけとなった世帯が、病院や商業施設などに近く便利な街中や、特養などの施設に住み替えるというニーズが強まっている。その際、住宅を中古住宅として売りに出してもなかなか買い手が見つからないというネックがあった。この点に着目し、住宅を自社で買い取り、基本構造以外は一新。新築住宅より入手しやすい価格で販売する方式を導入している企業がある。高齢者世帯にとっては住み替えに伴う資金的な問題が緩和されるとともに、中古住宅を若い世代に循環・継承させることで団地の若返り、活性化にも貢献している。